



一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837

長野市大字南長野字幅下667-6

長野県土木センター内

電話 026-235-3510

FAX 026-235-3583

|                                  |                                |
|----------------------------------|--------------------------------|
| ◇令和4年農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点・・・1     | ◇植防短信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7 |
| ◇イネ縮葉枯病及び媒介虫ヒメトビウンカの防除対策・・・4     | ◇地域情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7 |
| ◇コムギ赤かび病および赤かび病粒の簡易診断法・・・・・・・・5  | ◇協会だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8  |
| ◇話題の農薬「畦畔一辺処理が可能な水田除草剤の『FG剤』」・・6 |                                |

## 令和4年 農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点

農業技術課 副主任専門技術員 金子政夫

令和4年版の農作物病害虫・雑草防除基準が令和4年2月に発刊された。今回の改正は、新たに普及に移す農業技術に採用された農薬や防除技術の追加と、登録失効などに伴う削除、修正等が主であり、主な改正点を下表にまとめた。なお、紙面の都合上、農薬登録変更に伴う使用基準（使用時期や使用回数など）の変更点等は記載を省略した。

### 1. 病害虫防除に関する主な改正点

| 作物名                    | 対象病害虫等              | 改正内容  | 改正理由等  |
|------------------------|---------------------|---|--------|
| 水稲(食用イネ)               | 【種子～育苗期】<br>種子伝染性病害 | 防除方法に、以下を追加した。<br>＜温湯処理と生物農薬の体系処理＞<br>1. 種籾を60℃の温湯に10分間浸漬し、処理後は直ちに流水で冷やす。<br>2. 種籾を催芽時にエコホープDJまたはタフブロックの200倍液に24時間浸漬する。<br>また、注意事項の4番以降を以下のとおり変更した。<br>4. (変更) 温湯処理は発芽率を低下させる傾向があるため、できるだけ前年産の新しい籾を使用する。一昨年以上前の古い籾は処理により発芽率が著しく低下する場合があるため極力使用しないことが望ましいが、使用する場合は事前に発芽率等の調査を行う。<br>5. (追加、以下繰り下げ) 発芽率の低下傾向が大きい品種(「ゆめしなの」、「しらかば錦」など)を使用する場合は注意する。<br>11. (追加) 温湯処理と生物農薬の体系処理は各処理の単独処理より、防除効果を高めることができ、ばか苗病の本田での発病に対しても高い効果が得られる。<br>12. (追加) 温湯処理、温湯処理と生物農薬の体系処理は化学農薬と比較して、ばか苗病に対する効果がやや劣るため採種関係圃場では使用しない。<br>13. (追加) エコホープDJとタフブロックの使用方法及び注意事項は別表1を参照する。 | 追加・変更  |
|                        | 【別表4】               | 抵抗性誘導の薬剤にブーン箱粒剤を追加するとともに、以下のとおり【注意事項】に13番を追加した。<br>13. 紋枯病による減収率は成熟期の発病進展部位が高いほど大きくなる。株毎の発病進展部位と減収率の関係の目安は止葉で16～20%、止葉葉鞘で11～16%、次葉～次葉葉鞘で5～8%である。圃場の減収率は、発病進展部位別の発病株率を調査する。当年の発病が多い圃場では翌年も発生が多くなる傾向である。当年の減収を目安として翌年の防除の参考にする。   | 追加     |
| 飼料用イネ<br>(WCS用、飼料米用)   | 苗箱施薬剤<br>本田施用       | 近年、複数の殺虫剤や殺菌剤が混合された製剤が増加していることから、薬剤名毎に対象病害虫や使用時期等を記載した表を、使用可能な薬剤名を記載した表に変更した。   | 変更     |
| 麦類                     | コムギうどんこ病            | 新たにコムギうどんこ病の項目を設け、シルバキュアフロアブル及びチルト乳剤25の2剤と、これらの薬剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
|                        | コムギ赤さび病             | ワークアップフロアブルを追加した。   | 修正(普及) |
| とうもろこし<br>(スイートコーンを含む) | アブラムシ類              | アドマイヤーフロアブルを削除した。   | 失効     |

## ながの植物防疫

|              |                           |  |        |
|--------------|---------------------------|--|--------|
| りんご          | 薬剤耐性リンゴ黒星病菌にも対応できる今後の防除体系 | 令和3年度版に記載されていた「薬剤耐性リンゴ黒星病菌の定着・拡散を防止するための対応」について、DMI剤を使用しない防除体系が確立され、DMI剤耐性菌により黒星病が多発する危険を回避できるようになったことから「薬剤耐性リンゴ黒星病菌にも対応できる今後の防除体系」と変更した。また、防除体系も以下のとおり変更した。<br>(1) DMI剤は黒星病防除の基幹薬剤として使用しない。(赤星病の防除薬剤として活用する。)<br>(2) QoI剤(単剤)は単用せず、黒星病に効果の高い殺菌剤を加用する。<br>(3) 黒星病の秋季感染を防ぐため、黒星病の発生がみられる場合は、10月上旬まで防除を行う。<br>(4) 薬剤防除において散布むらが生じないように重なり枝の解消など樹形の改善を行い、十分な散布量を確保する。また、落葉処理など耕種的対策を併用する。 | 変更     |
|              | 展葉期<br>(発芽10日後頃)          | 注意事項を整理し、以下のとおり4～5番を追加した。<br>4. 降雨が多く次回までの防除間隔があく場合は、アントラコール顆粒水和剤500倍液またはパスポート顆粒水和剤1,000倍液を散布する。<br>5. パスポートは散布時期が遅れると果実にサビを生じることがあるので注意する。  | 追加・変更  |
|              | 開花直前                      | ミギワ20フロアブルと本剤に係る注意事項を追加した。   | 追加(普及) |
|              | 落花直後                      | 【黒星病非常発地】の項目を削除し、注意事項を整理した。  | 変更     |
|              | 7月上旬頃                     | フロントフロアブル25を追加し、注意事項に「フロントを散布する場合、オーソサイド水和剤80の800倍液を加用する。」を追加した。   | 追加(普及) |
| なし           | 【別表-1】ほか                  | DMI剤からルビゲン水和剤を削除した。  | 失効     |
|              | 交信かく乱剤の設置時期・量             | コンフューザーNの設置時期を「5月上旬から5月中下旬まで」に変更した。  | 変更     |
| ぶどう          | 品種毎の注意事項                  | 全ての品種について、防除暦の冒頭にある注意事項に以下を追加した。<br>1. この暦には小粒種ぶどうに登録のない薬剤や、小粒種ぶどうと大粒種ぶどうで登録内容が異なる薬剤が含まれるため注意する。<br>2. 薬剤によっては施設栽培(ハウス、雨よけ等)では使用できない時期があるので注意する。<br>3. 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する   | 追加     |
|              | 【別表1、2】                   | 生育期防除の薬剤から、ストロビードライフフロアブルを削除した。  | 失効     |
|              | 【総括注意】                    | 5番のクビアカスカシバ防除対策に、(2)としてロビンフッドの使用方法和注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
| もも、ネクタリン     | 発芽前                       | 「発芽直前」を「発芽前」に変更するとともに、注意事項の記載内容を整理した。  | 変更     |
|              | 落花10日後<br>(5月中旬)          | これまでの「5月中・下旬」の項目を「落花10日後(5月中旬)」と「5月下旬」に分割するとともに、せん孔細菌病防除剤としてアグレプト水和剤、アグレプト液剤、アグリマイシン-100と、これらの薬剤に係る注意事項を追加した。  | 変更・追加  |
|              | 6月上旬                      | これまで6月中旬の注意事項に記載されていた「ホモブシス腐敗病」の項目を、6月上旬の注意事項に移動した。  | 変更     |
|              | 【別表-1、2】                  | 別表-1にSDHI剤のカナメフロアブル、パレード15フロアブルを、また別表-2にカナメフロアブルを追加するとともに、注意事項に「カナメは蚕毒・魚毒に注意する。」を追加した。   | 追加(普及) |
| ネクタリン        | 落花後                       | せん孔細菌病防除剤としてマイコシールドを追加し、注意事項に「薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。」を追加した。   | 追加     |
|              | 落花10日後<br>(5月中旬)          | これまでの「5月中・下旬」の項目を「落花10日後(5月中旬)」と「5月下旬」に分割した。また、せん孔細菌病防除剤としてマイコシールドを追加し、注意事項に「薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。」を追加した。  | 変更・追加  |
|              | 5月下旬                      | チウラムフロアブルを追加し、せん孔細菌多発園での注意事項も加えて整理した。  | 追加・変更  |
|              | 【別表-2】                    | SDHI剤にカナメフロアブルを追加するとともに、注意事項に「カナメは蚕毒・魚毒に注意する。」を追加した。   | 追加(普及) |
| あんず          | コスカシバ                     | ロビンフッドの処理方法と本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
|              | ケムシ類                      | ヨーバルフロアブルと本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
| ブルーベリー・日本すもも | 7月下旬～8月上旬                 | 殺ダニ剤にダニゲッターフロアブルと注意事項を追加した。また【総括注意】にダニゲッターの薬害注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
|              | 【別表-1】                    | ジアミド剤にヨーバルフロアブルと本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及) |
| かき           | 6月中旬                      | パーマチオン水和剤を本文から削除するとともに、注意事項に「カキクダザミウマを防除する場合は、パーマチオン水和剤の1,000倍液又はオルトラン水和剤の1,500倍液を散布する。」とパーマチオンに係る注意事項を追加した。   | 変更     |

|           |                       |   |               |
|-----------|-----------------------|---|---------------|
|           | 6月下旬、<br>【別表-2】       | モベントフロアブル及び本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及)        |
|           | 7月下旬                  | オルトラン水和剤をスミチオン水和剤に変更し、本剤に係る注意事項を追加した。   | 変更            |
| くるみ       | クワシロカイガラムシ            | 新たにクワシロカイガラムシの項目を設け、参考農薬としてアプロードフロアブルを追加した。   | 追加<br>(参考農薬)  |
| ブルーベリー    | 斑点病                   | インプレッション水和剤及び本剤に係る注意事項を削除した。  | 失効            |
| ズッキーニ     | アブラムシ類<br>(ウイルス媒介)    | アドマイヤーフロアブル及び本剤に係る注意事項を削除し、ウララDF2,000倍液の散布を追加した。  | 失効・<br>追加(普及) |
| キャベツ      | べと病                   | ピシロックフロアブルを追加した。  | 追加(普及)        |
|           | 株腐病                   | ロブラール水和剤を追加した。  | 追加(普及)        |
|           | 【別表】殺虫剤               | ネライストキシン剤のエピセクト水和剤を削除し、リーフガード顆粒水和剤と本剤に係る注意事項を追加した。<br>また、BT剤にサブリーナフロアブルを、イソオキサゾリン剤にプロフレアSCを追加し、注意事項を整理した。 | 失効・<br>追加(普及) |
| カリフラワー    | 【別表】殺虫剤               | イソオキサゾリン剤にプロフレアSCを、マクロライド剤にアフーム乳剤を追加し、これらの薬剤に係る注意事項を追加した。   | 追加(普及)        |
| ブロッコリー    | 【別表】殺虫剤               | オキサゾリン剤にプロフレアSCを追加し、本剤に係る注意事項を追加した。   | 追加(普及)        |
| はくさい      | 炭疽病                   | ファンタジスタ顆粒水和剤とQoI剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及)        |
|           | 白さび病                  | ジャストフィットフロアブルを追加した。   | 追加(普及)        |
|           | 【別表】殺虫剤               | ネライストキシン剤のエピセクト水和剤を削除し、リーフガード顆粒水和剤と本剤に係る注意事項を追加した。  | 失効・<br>追加(普及) |
| チンゲンサイ    | コナガ、アオムシ              | エピセクト水和剤及び本剤に係る注意事項を削除した。   | 失効            |
| レタス(玉レタス) | 腐敗病                   | 生物農薬にマスタピース水和剤を追加した。  | 追加(普及)        |
| 非結球レタス    | ヨトウムシ                 | 育苗期後半～定植当日処理の薬剤として、ジュリボフロアブルと本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及)        |
|           | ナモグリバエ<br>(ハモグリバエ類)   | 定植時処理の薬剤として、ジュリボフロアブルと本剤に係る注意事項を追加した。   | 追加(普及)        |
| セルリー      | 軟腐病                   | カスミンボルドーを追加した。  | 追加(普及)        |
|           | ナメクジ類                 | リーフガード顆粒水和剤及び本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及)        |
| ねぎ        | ネギハモグリバエ<br>(ハモグリバエ類) | 定植時処理の薬剤として、アベイル粒剤と本剤に係る注意事項を追加した。  | 追加(普及)        |
| シクラメン     | ミカンキイロアザミウマ           | エピセクト水和剤及び本剤に係る注意事項を削除した。   | 失効            |

2. 雑草防除に関する主な改正点

| 作物名    | 対象雑草  | 改正内容  | 改正理由                    |
|--------|---|---|-------------------------|
| 水稻     | ヒエに加えて、一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、ホタルイ、ミズガヤツリなどの残草があった場合 | 移植水稻用中・後期除草剤として、レプラスジャンボを追加した。                          | 追加(普及)                  |
|        | オモダカ多発田                                       | 移植水稻用ノビエ3～4葉期剤として、アットウZ1キロ粒剤、カイリキZジャンボを追加した。            | 追加(普及)                  |
|        | クログワイ多発田                                      | 移植水稻用ノビエ3～4葉期剤として、アットウZ1キロ粒剤、ゼータプラスジャンボ、カイリキZジャンボを追加した。 | 追加(普及)                  |
| ブロッコリー | 一年生雑草<br>(アカザ科、アブラナ科、タデ科を除く)                  | フィールドスターP乳剤を追加し、参考農薬から本剤を削除した。                          | 追加(普及)、<br>削除<br>(参考農薬) |

3. 植物成長調整剤に関する主な改正点

| 作物名              | 使用目的               | 改正内容   | 改正理由   |
|------------------|--------------------|--|--------|
| ぶどう<br>(ナガノパープル) | 新梢伸長抑制<br>(短梢せん定樹) | 新たに「ぶどう(ナガノパープル)」の項目を設け、フラスター液剤と本剤の使用法、使用上の留意点を追加した。       | 追加(普及) |
| いちご              | ランナー発生促進           | 新たに「いちご」の項目を設け、ジベレリン水溶剤及びジベレリン液剤と、これらの薬剤の使用法、使用上の留意点を追加した。 | 追加(普及) |
| シクラメン            | 開花抑制               | エスレル10と本剤の使用法、使用上の留意点を追加した。                                | 追加(普及) |

## イネ縞葉枯病及び媒介虫 ヒメトビウンカの防除対策

農業試験場 阿曾和基

### 【はじめに】

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病ウイルス (Rice stripe virus, RSV) によって引き起こされるイネの病害である。国内では1900年頃に始めて発生が確認され、1960年から1980年代にかけて全国的に大流行した。長野県内では1960年に全県的に発生が見られ、1967年と1977年には佐久地域を中心に多発生した。以降はほとんど発生が確認されない状況が続いていたが、2018年に東信地域の一部で発生が確認され、現在も発生が継続している。2021年度の発生状況は、発生面積123ha、発生面積割合0.4%で、新たに発生が確認された地域もあり、今後の発生状況に注意が必要な病害である。

### 【病 徴】

葉身では葉脈に沿って黄緑色～黄白色の縞状斑紋を生じ (図 1)、葉が巻き込んで垂れ下がり正常に展開しなくなる。生育初期に感染すると分けつが少なく株全体に症状が現れて、こより状に垂れ下がった抽出葉が多く生じる「ゆうれい症状」となり、症状が重い場合は萎縮、枯死する。生育初期～中期に感染すると、出穂しないか、出穂しても出すくみ、白化、しいな (不稔) となる (図 2)。収穫後のひこばえ (再生稲) にも葉の黄化等の症状がみられる。発病してからは治療的に防除することはできない。



図 1 葉の縞状斑紋



図 2 穂の出すくみ

### 【被 害】

イネ縞葉枯病の症状が現れた穂は稔実しないため、発病した穂の分だけ収量が減少する。なお、千粒重や食味については発病株と健全株との違いは認められていない。

県内のイネ縞葉枯病発生地域における発病状況を調査したところ、ウンカ類に効果の低い薬剤が使用

されていた圃場では、発病穂率は7～17%、推定減収量は44～102kg/10aと減収被害が認められた。一方でウンカ類に効果の高い苗箱施薬剤が使用されていた圃場では、発病穂率は0.5～1%とイネ縞葉枯病の発生が抑制されており、推定減収量は3～6kg/10aと減収程度も軽微であった。

### 【発生生態】

本病は主にウイルスを保毒したヒメトビウンカ (媒介虫) (図 3) がイネを吸汁することで、イネにウイルスが感染して発病する。また、ウイルスを持たない虫が発病株を吸汁すると、ウイルスを獲得して保毒虫となるとともに、保毒虫から生まれた子の約9割は保毒虫となる (経卵伝染)。管理作業 (接触)、土壌、種子では媒介されない。ヒメトビウンカは秋期に水田から周辺の雑草地等に移動し、幼虫で越冬する。春先に羽化した越冬世代成虫は周辺の麦圃場に移動し、産卵する。麦圃場や雑草地で増殖した第一世代成虫が水田に侵入する。



図 3 ヒメトビウンカ (左: 雌成虫、右: 幼虫)

### 【防 除】

本病による被害を減らすためには、ウイルスを媒介するヒメトビウンカを防除してイネがウイルスに感染する機会を減らすことが重要である。特に、幼穂形成期までの感染が減収につながるため、6月上旬頃から水田内に侵入する第1世代成虫をしっかり防除することを心がける (図 4)。

本田散布剤 (水面施用剤) は圃場の湛水条件等により効果が安定しない場合もあることから、苗箱施薬剤による防除を基本とする。近年、ウンカ類に効果の高い薬剤が上市されており、ゼクサロン箱粒剤\*、リディア箱粒剤、アレス箱粒剤及びチェス粒剤\*については、現地試験にてヒメトビウンカに対する高い防除効果とイネ縞葉枯病の発病抑制効果を確認している (\*は単剤での流通がないので混合剤を使用する)。

また、ひこばえ (再生稲) はヒメトビウンカの生息・越冬場所になるとともに、再生苗の発病株率が高いと保毒虫率が増加し、翌年の本病の発生も増やすことから、水稻収穫後、早めに耕起して枯死・分

解を促す。ただし、雑草イネ発生圃場を除く。

このほか、ヒメトビウンカの越冬量を減らすため、秋冬季の畦畔や休耕地等のイネ科雑草の除草に努める。麦類作付圃場は第一世代幼虫の生息地になる場合が多いので、周辺水田では特に注意が必要である。

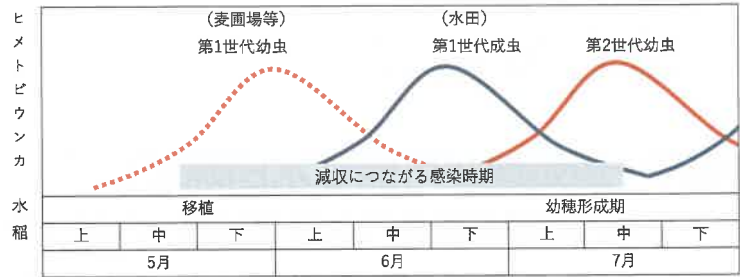


図4 ヒメトビウンカの発生消長と減収につながる感染時期

## コムギ赤かび病および赤かび病粒の簡易診断法

農業試験場 中島宏和

### 1. コムギ赤かび病とは

コムギ赤かび病は主に *Fusarium* 属菌によって引き起こされる病害である。本病は主に穂に発病し、収量低下を招くのみではなく、病原菌によって生成されるデオキシニバレノール (DON) 等のマイコトキシン (かび毒) によって食品衛生上の汚染を引き起こされることから重要な防除対象病害とされている。昨年は、5月中下旬に感染に好適な条件が複数回観測され、10年ぶりに多発生となった。

### 2. 発生生態

病原菌は罹病残渣中の子のう殻で越冬し、翌年の伝染源になる。春になると降雨に伴って一次伝染源から子のう胞子が飛散し、穂に感染する。特に開花期以降に感染しやすく、高温多雨条件で発病が助長される。感染した穂には分生子が形成され、周囲の穂へ二次伝染する。

### 3. 穂の病徴診断

感染すると、まず一部の小穂が褐変し、徐々に拡大して穂の一部または全部が褐変枯死する (写真1)。湿度が高いと穎の合わせ目から鮭肉色の分生子胞子塊を生じる (写真2、3)。県内では、6月上旬頃が穂の発病状況の観察適期となる。成熟期では分生子胞子塊の形成は増えるが、生理的に穂が褐色になることから、一部の白ふ品種を除いて観察は難しい。分生子胞子塊を検鏡すると特徴的な三日月



赤かび病の罹病穂 (写真1)

型の大型分生子胞子が観察できる (写真4)。

### 4. 赤かび病粒の診断

罹病した穂は登熟が阻害され、被害粒は小粒またはしわ粒となることが多い。表面に赤かび病菌由来の赤～ピンク色の色素が付着する場合がある (写真5)。軽度または不鮮明な着色でしわ粒の混入が少ない場合 (写真6bのような場合) はプロッター法 (調査粒をシャーレ内に、水で湿らせたろ紙などと共に静置し、適温で数日間培養する方法)、選択培地などを用いて *Fusarium* 属菌の菌糸および胞子の形成を確認する。



分生子胞子塊1 (写真2)



分生子胞子塊2 (写真3)



大型分生子胞子 (写真4)



赤かび病粒 (写真5)



外観健全粒



軽度の着色あり  
軽度に着色した赤かび病粒 (写真6)

# 話題の農薬

## 畦畔一辺処理が可能な水田除草剤の『FG剤』 ～水稲用除草剤の省力化散布技術への取り組み～

協友アグリ株式会社 東京支店 長野営業所



写真1 FG剤の外観



### はじめに

自己拡散型浮遊粒剤 (Floating Granule)、通称「FG剤」は、水稲用除草剤の散布時間、労力軽減を目的に開発された新規の省力散布粒剤です (写真1)。その優れた自己拡散性により、散布時間を大幅に削減できます。

### FG剤の特長

含有されている拡散剤により、散布直後から粒剤が速やかに水面を拡がり、有効成分もそれに合わせて水中に拡散していきます。また、製剤から溶出した有効成分は、風と田面水の水流により、圃場全体に均一に拡がります (写真2、図1)。そのため、圃場内に入って散布する必要がなく、畦畔散布やドローン散布 (無人航空機による散布) といった作業労力や散布時間を軽減する省力散布が可能です。

上の畦畔1～2辺からの散布が可能で、省力散布技術として普及を進めています (図2)。

農薬散布には風のない時間帯を選ぶことが一般的に励行されていますが、FG剤の風上散布は風を利用する技術として、生産者が時間帯に縛られずに取り組めることも省力的な利点と考えております。

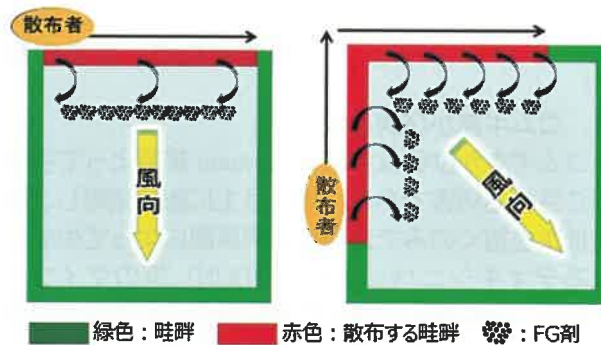


図2 風上側畦畔散布の模式図



写真2 FG剤が拡散する様子

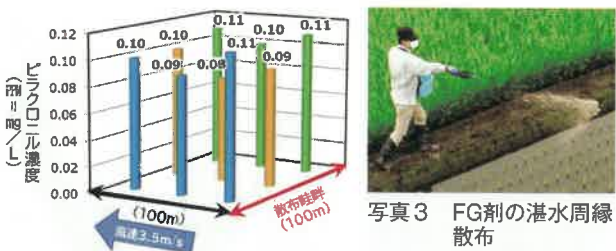


写真3 FG剤の湛水周縁散布

図1 1ha圃場におけるFG剤散布後の有効成分水中濃度  
散布96時間後の水中ピラクロニル濃度 (圃場の9か所より採水)

〔ハングスコープなどを用いて100～200gずつ散布する〕

※FG剤のご使用方法につきましては右のQRコードからもご確認いただけます。



QRコード (FG剤特設サイト)

### 協友アグリFG剤のラインナップ

協友アグリ(株)の主要なFG剤は次の通りです。  
「アップレZ400FG」、「バッチリLX400FG」、  
「ビクトリーZ400FG」、「アシュラ400FG」、  
「アットウZ400FG」、「ジェイフレンド400FG」、  
「サラブレッドKAI400FG」、「ガツントZ200FG」

※2022年2月時点

### FG剤の散布方法

FG剤は、湛水周縁散布 (畦畔散布) の登録を取得しています。畦畔散布の方法は、圃場面積に合わせてFG剤を秤量し、ハングスコープなどを用いて、畦畔から1～2m先を目安に水田内に投入します (写真3)。また、顔に風を感じる条件下 (風速2m/s以上) であれば、1ha規模の大規模圃場でも風

写真4 アップレZ400FG  
左: 10a規格 (400g)  
右: 1ha規格 (4kg)



## 植防短信

### 長野県農薬卸商業協同組合総会 開催される

長野県農薬卸商業協同組合の令和4年度(第76期)通常総会が2月16日長野市で開催されました。

令和4年度事業計画では、農薬安全コンサルタントリーダー等の農薬関係資格の取得推進が承認されました。農薬安全コンサルタントリーダーは、農業生産現場において農家の病虫害防除の要請にこたえられる技術的裏付けを持った営業マンの養成を全国農薬協同組合が平成25年から進めているものです。

全国では今まで155名が認定されていますが、長野県は最多の25名います。

昨年5月、農林水産省は食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現の為の「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

また、農薬取締法改正による「既登録農薬の再評価制度」に対応した作物残留試験が始まるなど、農業や農薬を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。当組合としてこうした変化に適切に取り組むとともに、これから更に各組織の充実強化を図り、農薬の技術指導を一層充実させることを決定しました。

(長野県農薬卸商業協同組合 近藤弘利)

## 地域情報

### 雑草イネの発生ほ場調査について

佐久地域では雑草イネによる水稻の収量、品質低下が懸念されており、「佐久地域雑草イネ対策プロジェクトチーム」を組織し、対策にあたっています。その一環として、雑草イネが発生しているほ場の把握を行ってきました。

その手段はこれまで、徒歩で調査し紙の地図へ書き込む方法や、車に乗ってGPSカメラでの撮影が行われてきました。これらは、調査に時間を要すことや、集計や保存、共有が困難でした。そこで信州大学の渡邊修准教授に、ほ場の雑草イネ発生程度を入

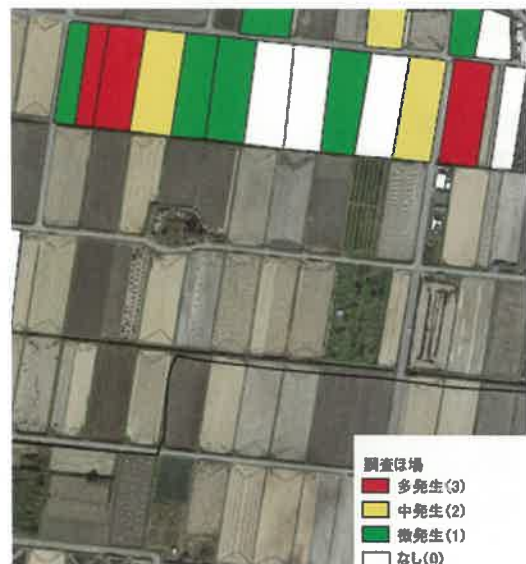
力し、その位置情報を取得するアプリ(GISソフト ArcGIS Survey123 (ERISジャパン(株))の活用を提案いただきました。今年度から、農業農村支援センターにある5台のiPad等を用いて実践しました。このアプリのデータと農地区画情報と併せて解析することで、雑草イネの発生ほ場や発生程度について、簡易的に記録や集計、保存、共有ができるようになり、効率的に調査、解析することができました。

今後は、アプリの活用を広めるとともに、除草剤3剤体系による防除や収穫後の石灰窒素の散布等の防除につなげ、雑草イネの撲滅を目指して、来年度から重点課題として取り組んでいきます。

(佐久農業農村支援センター 小浜由彦)



アプリを活用した調査風景



調査結果

## ブロッコリー生産振興プロジェクト の取組み

上田地域の野菜生産額の中でブロッコリーは2番目に大きな重要品目となっており、多くの農業者が栽培に取り組んでいます。しかし、近年夏場における病害虫の発生や高齢化による担い手の減少等が課題となっており、令和2年から支援センターではJA、市町村等と連携して生産振興に取り組んでいます。

病害虫については、黒すす病と花蕾腐敗病の多発が大きな課題となっています。この2つの病害は、どちらも花蕾を侵すことから、収穫ロスに直結する重大な病害です。これらの病害を抑えるためJAと協力し、特に重要となる技術をまとめた「病害虫防除ポイント」を作成し、講習会等を通じて啓発を実

施しているほか、病害が発生しやすい時期に合わせて「技術情報」を作成し、JA生産部会を通じ周知するなど病害対策の取組みを強化してきました。

これら病害虫対策のほかにべたがけ資材を活用した作期前進に向けた調査や緑肥導入による土壌改善効果結果等を取りまとめ、令和3年12月に「ブロッコリー生産振興プロジェクト試験成績検討会」を開催しました。検討会では、上田地域における病害虫対策、試験場からの病害対策に向けた知見の共有、令和3年に実施した試験の結果等を踏まえ、次年度の生産振興に向けて闊達な意見交換がなされました。

今後も、病害虫防除への取組みや各種技術の啓発等を通じ、ブロッコリーの生産振興につなげてまいります。

(上田農業農村支援センター 山崎雅弘)



## 協会だより

### ●令和4年版

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」販売中

★★★ 安全・確実な防除のための1冊 ★★★

価 格： 800円 (消費税込み、送料別途)

※問い合わせ・ご注文先

(一社) 長野県植物防疫協会事務局

電話 026(235)3510、FAX 026(235)3583

または、最寄りの農業農村支援センター

### 【行事】

- 1月27日、2月25日 試験研究推進会議病虫部会 (Web開催)
- 2月9日 令和4年度農薬展示ほ設置打合せ会議 (Web開催)
- 2月14日、17日 農薬管理指導士更新研修会 (Web開催)
- 2月21日 農薬指導管理士養成研修会 (Web開催)
- 2月21～22日 試験研究推進会議作物部会 (Web開催)
- 2月22日 試験研究推進会議野菜花き部会 (Web開催)
- 2月24日 試験研究推進会議果樹部会 (Web開催)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。  
URLは<http://www.nagano-ppa.jp/>です。